

室生小だより 「桜梅桃李」

No.3

令和5年 5月9日(火)

(<http://www.murou-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

右、左、右、後ろ、手を上げて

4月25日(火)に奈良県警交通課の警察官に来ていただいて、交通安全教室を実施しました。

交差点での飛び出し事故が多いことから、全校生で「右、左、右、後ろ、手を上げて」という基本



を練習した後、交通安全危険予測シミュレータという機器を使っての横断や自転車のヘルメットの重要性などのお話を聞ききました。

2時間目には1年生が道路標識や信号機、横断歩道の渡り方のお話を聞き、4年生は主にVRを用いた自転車の乗り方の体験をしました。どのお話も「命を守る」ことが奥底に流れていました。

交通安全教室を行うたびに、毎朝、子どもたちの登校を見守ってくださる「子ども安全見守り大野ボランティアグループ」の方のご苦勞を思います。いつも本当にありがとうございます。

「ここはな、『失礼します』って言うねんで」

生活科の学習で、2年生が1年生に学校紹介で校舎の中を案内してまわりました。体育館や図書室など知っている教室はもちろん、理科室・家庭科室など使ったことのない教室も「ここは〇〇する教室です」と説明して歩きました。

昨年について歩くだけだった現2年生も今年は上級生として1年生をリードして歩いていました。来年は現1年生も上級生となり頼もしくなるんだろうなと思うと、上級生が下級生に教えることの大きさを改めて感じます。



室生小学校は、そうじや集会活動を学年を超えた縦割り班で行っています。上級生から下級生へ。大切にしたい活動の一つです。

読書のススメ in室生

かつて「世界の絵本展」で紹介されていたブラジルのなぞなぞから。「言葉も話せず耳も聞こえないのに、何でも教えてくれるもの、なーんだ？」同じ答えになりますが、モンゴルには「識者には知恵の宝庫、無知な者にはごちゃごちゃなもの、なーんだ？」というなぞなぞもあります。 答:「本」

本を手にとって、「知恵の宝庫」の扉を開ける人と、そうでない人がいます。近年、中高生の読書量が増えたというデータもありますが、依然として読書離れが指摘されています。通勤電車では、本を広げる人よりもスマホを触る人の方を圧倒的に多く見かけます。



ある新聞に、読書量が群を抜く中学校に赴任した教員の話が載っていました。そこには、他校と比べ、図書室の位置と生徒の読書量との関係に特徴があるのだとありました。いわく、「理由は単純でした。子どもたちが校舎に入ると、目の前に図書室があるのです。『本と出会う環境』をつくるのが大事なのです」と。

室生小では、子どもたちが本と出会う環境を教員と共につくって下さるサポーターさんがいます。昨年から手作り面展



教員の育休に伴う臨時講師について

児童支援を担当していた松井友昭先生が5月1日から育休に入りました。その代わりとして、堀山弘行先生が着任しました。引き続き子どもたちが不安なく日々の学校生活と学習に励んでいけるよう努めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしく願います。

